

足場／足場板

技能評価シート28ページ

指導の目標

外部作業、高所作業をする場合は、必ず足場(板)の上に乗って行わなければならないことを理解させる

足
場
板



作業上の注意

- ・必ず安全帯を使用すること
- ・手すり及び足場板が固定されているか確認すること
- ・作業後に足場板の上に道具や材料を置き放しにしないこと

安全上の注意

- ・必ず安全帯を使用すること
- ・作業の邪魔になるため、一時的に取り外したブレースや手すりは、作業後必ず元通りに取付けておくこと
- ・手すり及び足場板が固定されているか確認すること

作業

作業について指導する際の注意事項

すべての作業の最終目標はよい建物をつくること、それに尽きます。そのためには一つ一つの作業をミスなく積み上げていくことが肝心です。

例えば、柱筋の立ちが傾いていると、根本の方では僅かだった狂いも、天井近くでは大きな誤差となってやり直し工事を行わなくてはならなくなります。外国人技能実習生には、一見ささいに見えることでも、それをおろそかにすると後で大きな瑕疵につながる恐れがあることをタイムリーに指導してください。

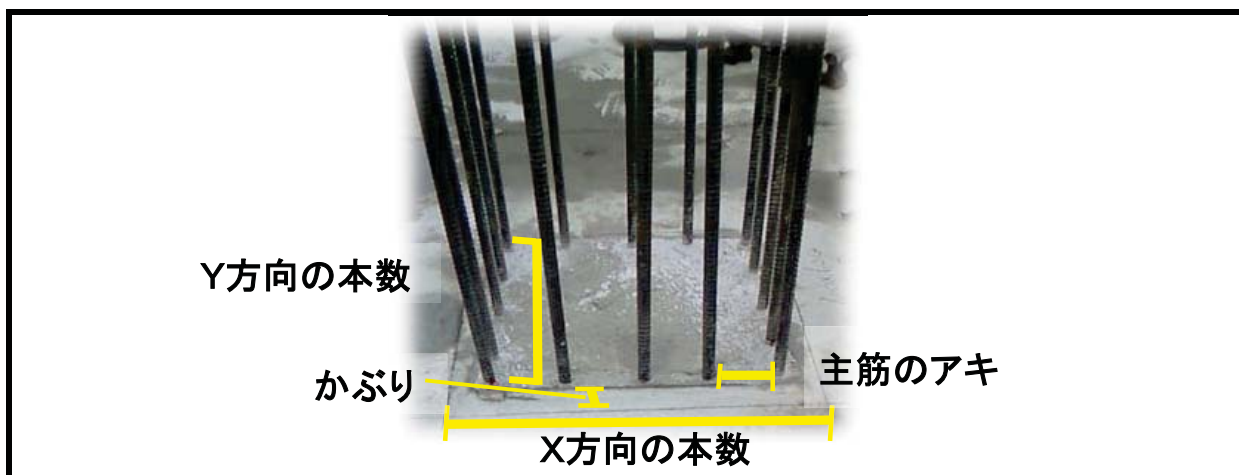
ミスのない作業をするためには、図面に指示された数値や記号を正しく理解することが大切です。外国人技能実習生には「なぜその数値になっていなければならないのか」を簡潔に説明し（例えばかぶりを保つため等）、万が一現場で図面通りの寸法がとれないときは必ず指導員に指示をあおぐことを徹底しておきます。いずれにしても、作業終了後は必ず指導員が最終確認をし、ミスはすみやかに修正させ、次は失敗しないよう丁寧に指導することを繰り返しましょう。

柱筋組立て①

技能評価シート31ページ「差筋の確認」

指導の目標

コンクリート打設前の自主検査で、配筋が正しいことを確認させる



作業上の注意

- ・かぶりがあることを確認すること
- ・本数が正しいことを確認すること
- ・主筋のアキがあることを確認すること

安全上の注意

- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること

柱筋組立て②

技能評価シート32ページ「柱筋の立ち方の確認」

指導の目標

垂直に建っていないと建物の上に行くほど、傾くことを理解させる



圧接前の立ち



組立後の立ち

作業上の注意

- ・圧接前の主筋が垂直であるか、下げ降りあるいは水平器で確認すること
- ・組立て後の全体が垂直であるかは、目視により確認すること

安全上の注意

- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること

柱筋組立て③

技能評価シート33ページ「フープのピッチの確認」

指導の目標

決められたピッチを守らないと鉄筋コンクリートの強度がでない場合があることを理解させる



作業上の注意

加工図通りのピッチになっているか確認すること

安全上の注意

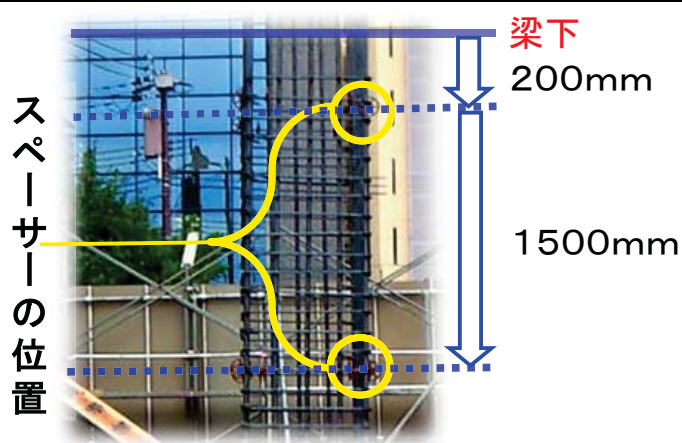
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること

柱筋組立て④

技能評価シート34ページ「スペーサーの位置の確認」

指導の目標

柱の上から下まで一定のかぶりを確保するために決められた間隔でスペーサーを取付けることを理解させる



作業上の注意

梁下200mmから始まって1500mm以内のピッチになっていることを確認すること

安全上の注意

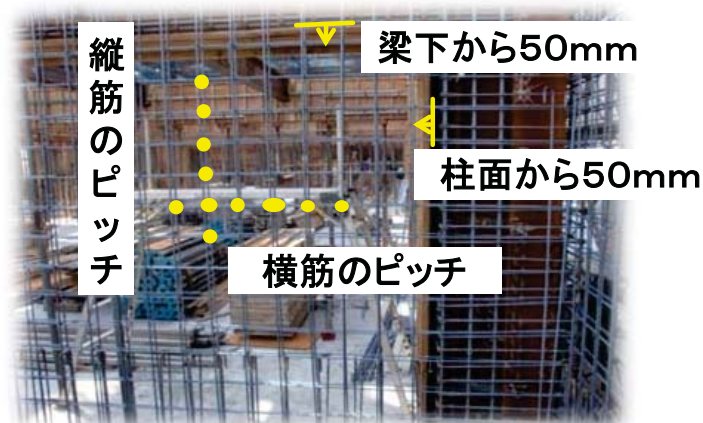
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること

壁筋組立て①

技能評価シート35ページ「径、ピッチの確認」

指導の目標

決められた径・ピッチを守らないと鉄筋コンクリートの強度がでない場合があることを理解させる



作業上の注意

柱面、梁下の50mmからはじまっているか確認すること

安全上の注意

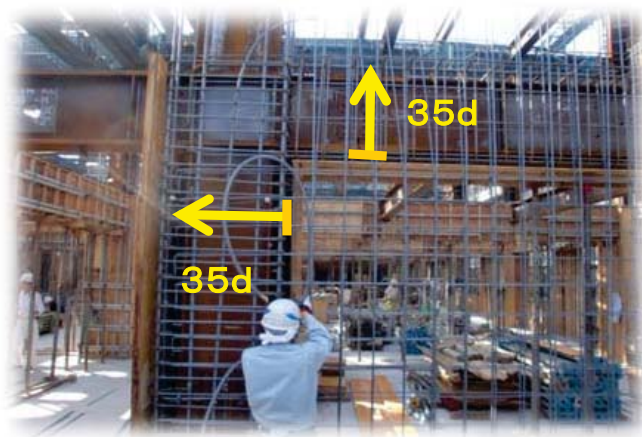
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

壁筋組立て②

技能評価シート36ページ「定着の確認」

指導の目標

十分な定着がないと壁の強度が弱くなることを理解させる



作業上の注意

正規の寸法通り(一般的には35d)に定着が入っているか配筋の段階で確認すること

安全上の注意

- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

壁筋組立て③

技能評価シート37ページ「継ぎ手の長さの確認」

指導の目標

継ぎ手部分が鉄筋コンクリートの弱点となることを理解させる



作業上の注意

正規の寸法通り(一般的には40d)に重なっているか配筋の段階で確認すること

安全上の注意

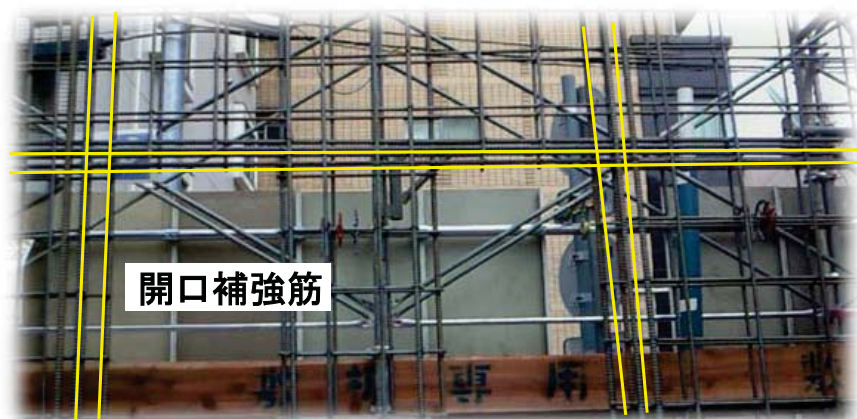
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

壁筋組立て④

技能評価シート38ページ「開口補強筋の確認」

指導の目標

補強筋がないと周辺の鉄筋コンクリートの圧力が、開口部に集中して、耐力がもたないことを理解させる



作業上の注意

- ・開口部の大きさが正しいか確認すること
- ・本数、径、定着があっているか確認すること

安全上の注意

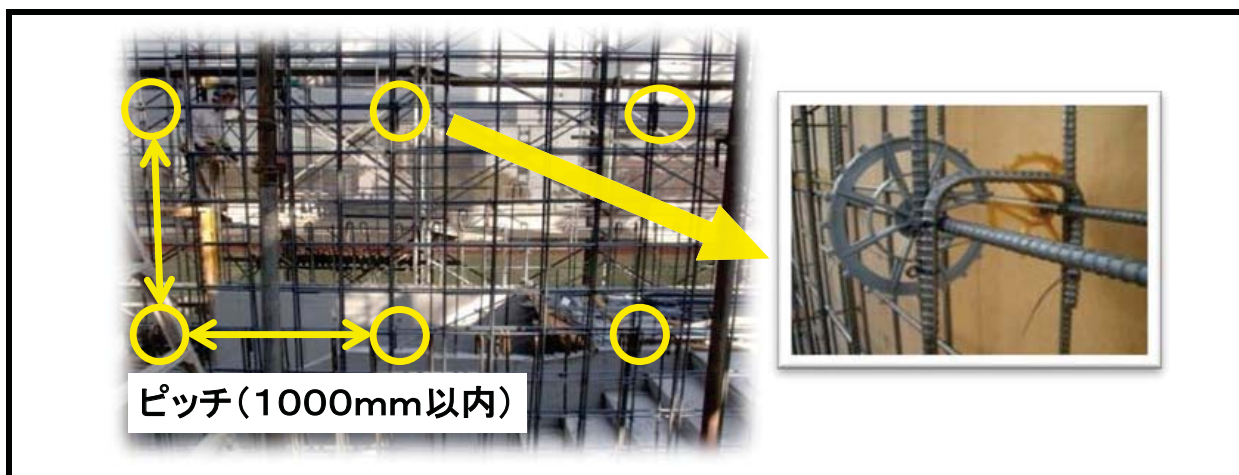
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

壁筋組立て⑤

技能評価シート39ページ「巾止め筋の確認」

指導の目標

かぶりを確保するためであることを理解させる



作業上の注意

壁筋の目を数えて、1m以内になっているか確認すること

安全上の注意

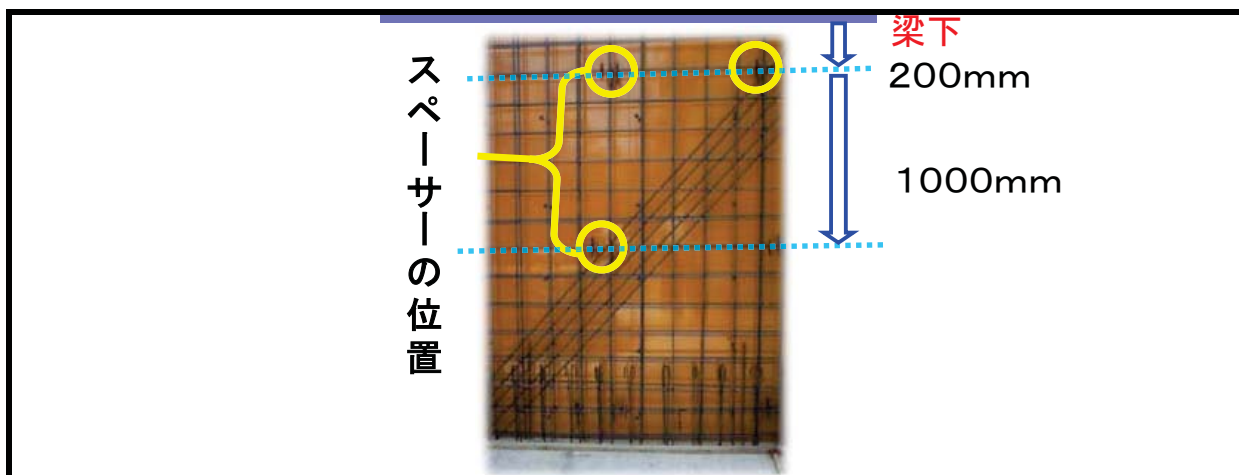
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

壁筋組立て⑥

技能評価シート40ページ「スペーサーの位置の確認」

指導の目標

かぶりを確保するためであることを理解させる



作業上の注意

- ・決められたピッチでスペーサーが入っていないと、均一のかぶりがとれないことを理解すること
- ・壁筋の目を数えて、1m以内になっていることを確認すること

安全上の注意

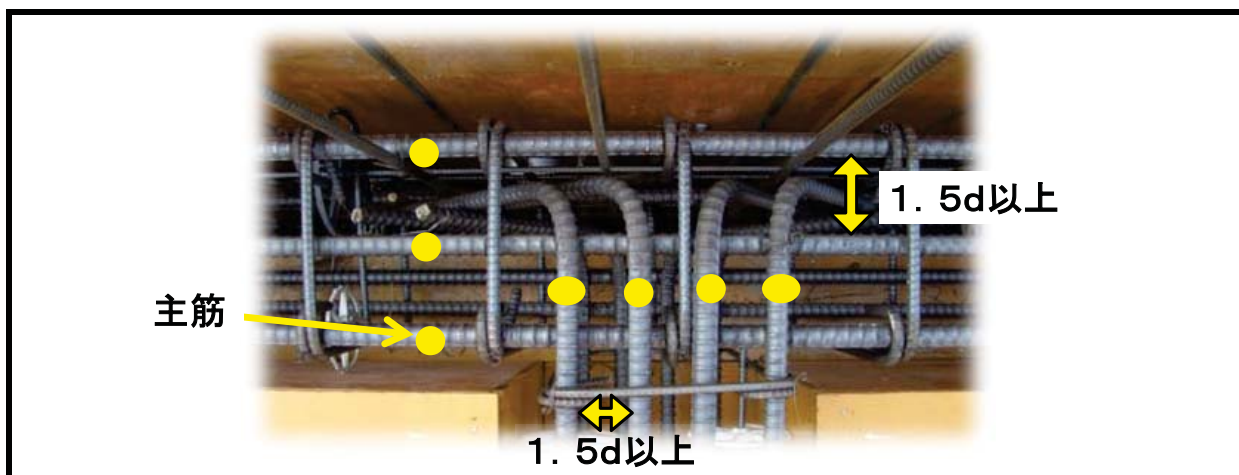
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・脚立・立ち馬作業の時、転落しないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

梁筋組立て①

技能評価シート41ページ「主筋の確認」

指導の目標

鉄筋の間に生コンが回りやすくするために間隔をとることを理解させる



作業上の注意

収まりが過密なところは、メジャーで測って1.5d以上の間隔があるか確認すること

安全上の注意

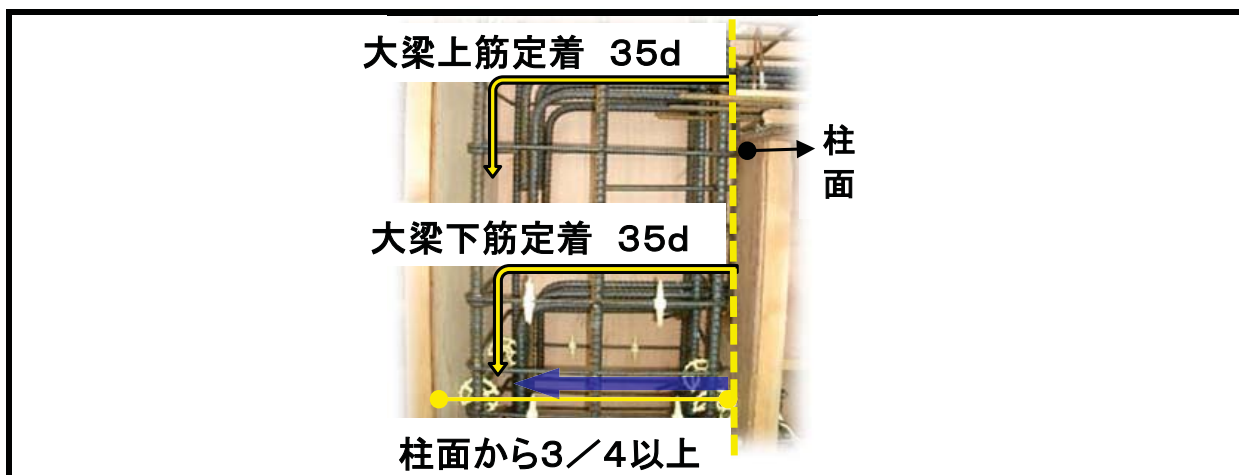
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・つまづいたり滑ったりしないよう足もとに注意すること
- ・鉄筋の切り口で、手足を傷付けないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

梁筋組立て②

技能評価シート42ページ「大梁定着の確認」

指導の目標

十分な定着がないと梁の強度が弱くなることを理解させる



作業上の注意

- ・定着が35d以上になっているか配筋の段階でメジャーで確認すること
- ・柱面から3/4以上入っているか配筋の段階でメジャーで確認すること

安全上の注意

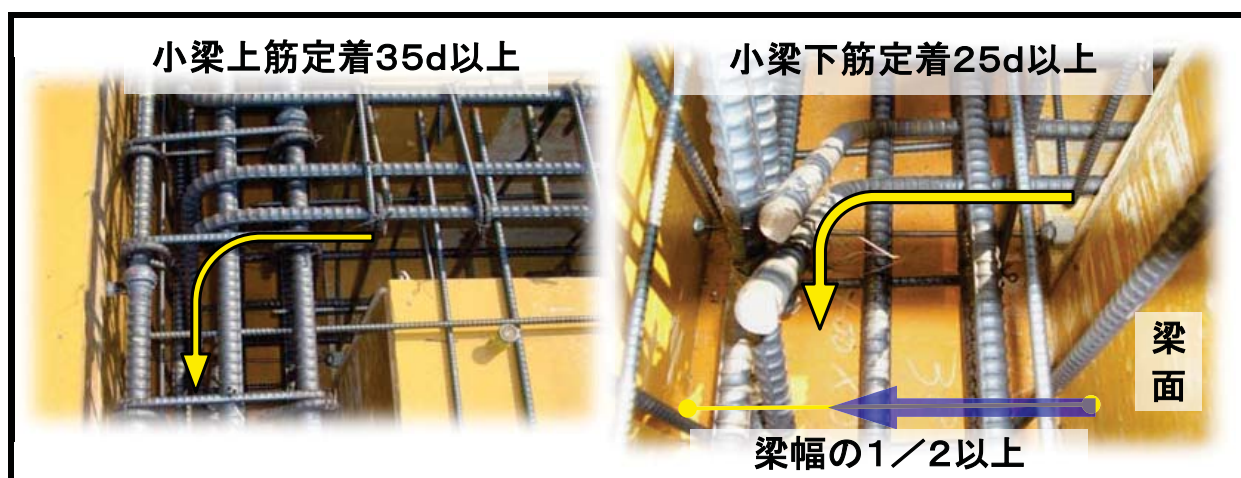
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・つまづいたり滑ったりしないよう足もとに注意すること
- ・鉄筋の切り口で、手足を傷付けないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

梁筋組立て③

技能評価シート43ページ「小梁定着の確認」

指導の目標

十分な定着がないと梁の強度が弱くなることを理解させる



作業上の注意

- ・小梁定着が上筋35d以上になっているか、下筋25d以上になっているか配筋の段階でメジャーで確認すること
- ・大梁面から1/2以上入っているか配筋の段階でメジャーで確認すること

安全上の注意

- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・つまづいたり滑ったりしないよう足もとに注意すること
- ・鉄筋の切り口で、手足を傷付けないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

梁筋組立て④

技能評価シート44ページ「スタラップの形状確認」

指導の目標

肋筋(あばらきん)とは、梁のせん断破壊を防ぐために入れる補強筋であることを理解させる



作業上の注意

組立図で指定された形状の肋(あばら)筋を、決められたピッチで配置するよう配筋の段階で確認すること

安全上の注意

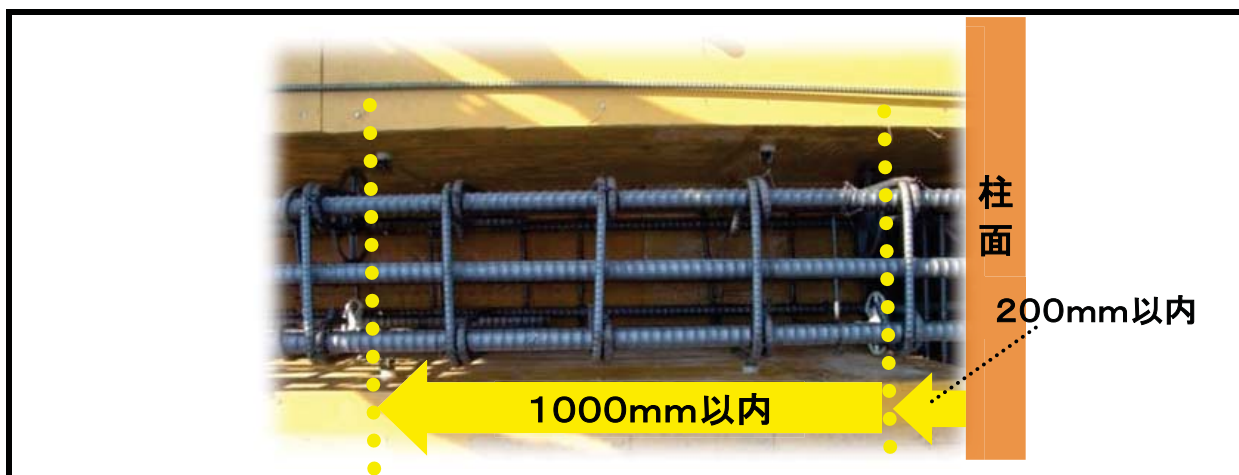
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・つまづいたり滑ったりしないよう足もとに注意すること
- ・鉄筋の切り口で、手足を傷付けないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

梁筋組立て⑤

技能評価シート45ページ「スペーサーの位置の確認」

指導の目標

かぶりを確保するためであることを理解させる



作業上の注意

- ・決められたピッチでスペーサーが入っていないと、均一のかぶりがとれないので注意すること
- ・肋(あばら)筋の目を数えて、1m以内になっているか確認すること

安全上の注意

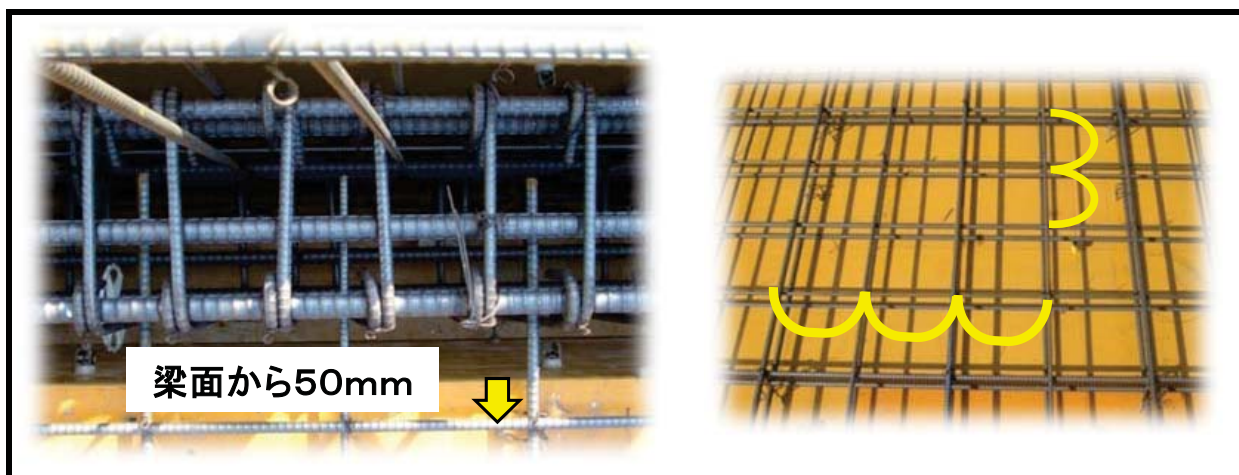
- ・足場上の作業の時は、必ず安全帯を使用すること
- ・相番作業時に鉄筋の抜き差しで指を挟まないようにすること
- ・つまづいたり滑ったりしないよう足もとに注意すること
- ・鉄筋の切り口で、手足を傷付けないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと

スラブ筋組立て①

技能評価シート46ページ「径、ピッチの確認」

指導の目標

決められた径・ピッチを守らないと鉄筋コンクリートの強度がでない場合があることを理解させる



作業上の注意

組立図で指定されたスラブ筋を、決められた径とピッチで、取付けることを配筋の段階で確認すること

安全上の注意

- ・スラブ端部では、必ず安全帯を使用すること
- ・つまづいたり滑ったりしないよう足もとに注意すること
- ・鉄筋の切り口で、手足を傷付けないように注意すること
- ・死角になっている所に危険がないか、お互いに注意し合うこと